

独立行政法人日本スポーツ振興センター
令和7年度第1回入札監視委員会議事概要

1 開催日

令和7年9月9日（火）10時00分～11時30分

2 開催場所

外苑事務所大会議室 1

3 出席委員（敬称略）

委員長 宮 直仁（公認会計士）

委員 齊藤 誠（弁護士）

委員 川瀬 貴晴（国立大学法人千葉大学名誉教授）

4 オブザーバー

児玉 進矢（監事）

大橋 玲子（監事）

5 議 題

- （1）令和6年10月から令和7年3月までの間に発注した建設工事の入札及び契約の運用状況等について（報告）
- （2）令和6年10月から令和7年3月までの間に発注した設計・コンサルティング業務の入札及び契約の運用状況等について（報告）
- （3）令和6年10月から令和7年3月までの間の指名停止等の措置状況について（報告）
- （4）抽出した建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する審議
- （5）その他

6 議事概要

- （1）令和6年10月から令和7年3月までの間に発注した建設工事の入札及び契約の運用状況等について（報告）
事務局から報告を行い、委員からの意見・質問は特になかった。
- （2）令和6年10月から令和7年3月までの間に発注した設計・コンサルティング業務の入札及び契約の運用状況等について（報告）
事務局から報告を行い、委員からの意見・質問は特になかった。
- （3）令和6年10月から令和7年3月までの間の指名停止等の措置状況について（報告）
事務局から報告を行い、委員からの意見・質問は特になかった。

(4) 抽出した建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する審議

令和6年10月から令和7年3月までの間に発注した案件のうち、委員により事前に抽出された以下の6件の審議を行った。

建設工事	4件	件名
一般競争入札 (政府調達に関する協定適用対象工事)	—	
一般競争入札 (上記を除く。)	3件	・国立競技場観戦ボックス等増設工事 ・HPSC・JISS防災設備更新工事 ・国立登山研修所本館改修その他工事(I期)
工事希望型競争入札	—	
通常指名競争入札	—	
随意契約	1件	・国立競技場トラック走路舗装改修工事
設計・コンサルティング業務	2件	
公募型プロポーザル	—	
簡易公募型プロポーザル	—	
簡易公募型プロポーザル(拡大)	—	
標準型プロポーザル	—	
一般競争入札	1件	・国立登山研修所本館等地盤調査その他業務
随意契約	1件	・国立競技場観戦ボックス等増設工事設計意図伝達業務
抽出案件(合計)	6件	

審議の結果、いずれの案件も了承された。

なお、委員の質問及びそれに対する回答並びに委員の意見のうち、主なものは次の通りである。

① 日本スポーツ振興センター国立競技場観戦ボックス等増設工事

(質問) 予定価格はどのように積算しているのか。また、1回目の入札金額とは差があったがその要因は何か。

(回答) 予定価格は、公共建築工事積算基準に基づいて算出した。今回、設備工事も含め建築一式で発注しているが、設備工事の価格差が大きかった。

(質問) 1者入札であるが、躯体に関わる全体の設計を知らないと参加できないような参加資格は設定されてないか。

(回答) 本件は躯体に係る工事はなく、ボックスをつくるための屋根や外壁、鋼製床組等の工事実績を設定しており、特定の企業しか受注できないという実績の設定とはなっていない。

(質問) 今回増設したボックスと既存のものとの違いは何か。

(回答) ボックスはメインスタンド側に全部で14部屋あるが、主催者側が利用することが多かった。民間事業化にあたり、稼げる施設に変えていくため、バックスタンド側に新たなボックスを設けることとしたものである。

② 日本スポーツ振興センターHPSC・JISS防災設備更新工事

(質問) 発電機としては更新期間が短いのではないか。

(回答) 点検時に不具合があり、防災設備であることから設備更新を行うこととなった。平時に使用することがあまりないことから劣化が早くなったと考えられる。

(質問) 1者応札となっているが、今後どのような工夫をすると複数者応札となると考えるか。

(回答) 応札に関心のあった者は複数者いたものの、他の案件を受注したことにより技術者の確保が困難になり辞退されている。可能な限り早期に発注を行い、業者を確保していくことを心掛けていきたい。

③ 日本スポーツ振興センター国立登山研修所本館改修その他工事（Ⅰ期）

(質問) 入札参加者が辞退し、結果1者応札となっているが、Ⅱ期の入札では複数者応札となるためにはどうしたらよいと思うか。

(回答) 施工規模は実績として求めていないため競争参加資格は緩和しており、これ以上条件を広げても効果があるとは考えにくい。また、辞退となったものの複数のエントリーはあることから、資格要件が過度に厳しいということではないと認識していることから、これまでどおり地元企業等も参加しやすい資格要件にすることが重要だと考える。

④ 国立競技場トラック走路舗装改修工事

(質問) 竣工時は国際陸上競技連盟（以下「WA」という。）クラス1の認証を受けていなかったのか。

(回答) 竣工時はWAクラス1の認証を受けていたが、認証から5年後にあらためて認証・公認の受検が義務づけられており、日本陸上競技連盟による現地調査により、経年劣化による補修の必要が認められたことから改修を実施したものであり、WAクラス1の認証条件が変わったわけではない。

(質問) 日本ではWA認証クラス1の工事を実施できるのは受注業者しかなかったということか。また、今回の改修について、予定価格が合理的であるという判断はどのように行ったか。

(回答) 東京2020大会時は、東京2020大会組織委員会が、国際オリンピック委員会からの要請を受け、WAのサプライヤーであるモンド社のトラック舗装を実施した。モンド社のトラック舗装の国内代理店が1社しかないため、今回の改修において、競争入札を実現することが難しかったが、見積の段階で日本陸上競技連盟を交え、3者で協議を行った上で、工事内容を決定したものである。なお、予定価格については実勢価格の確認や公共工事における積算基準に基づいて算出した。

(質問) 今後、全面改修する場合でも、WA認証クラス1を受けるためにはモンド社のトラック舗装での改修を行わなければならないのか。

(回答) WAでも日本陸上競技連盟でもウレタン舗装を認めているため、全面改修する場合は、ウレタン舗装に変更することを新しい運営事業者とともに検討している。

(質問) 全面改修にすれば応札業者が複数者となる可能性があったが、予算超過となるため部分改修としたということか。

(回答) 日本陸上競技連盟からは、部分改修でも世界陸上開催の条件を満たすとの情報を得ており、費用の面に加えて、国立競技場の民間事業化に向けトラックレコードを伸ばすためできるだけ工期を短くする必要があったことから部分改修を選択したものである。

⑤ 日本スポーツ振興センター国立登山研修所本館等地盤調査その他業務

(質問) 本館建設前に地盤調査は行わなかったのか。

(回答) 本件は建物がある場所ではなく、その周囲にあるトレーニングコース内の橋の老朽化が進んでいるため、その改修のために当該箇所の地盤調査を実施したものである。

(質問) 敷地境界復元とは何か。

(回答) 本館は建設から 55 年ほど経過していることから、当時の地積測量図を元にあらためて境界標を設置するものである。

(質問) 業務期間が 11 月～ 1 月の冬の期間だが、期間が異なれば、経費を抑えることができたのではないか。

(回答) 本件の対象場所を確定するまでに時間を要したため業務期間が冬となったが、対象場所の立地条件や天候等を考慮した上で業務期間を設定しており、積雪前に調査、測量は実施できることから、費用は変わらないと考えている。

⑥ 日本スポーツ振興センター国立競技場観戦ボックス等増設工事設計意図伝達業務

(質問) どのような場合に意図伝達業務を行うのか。

(回答) 本件は観戦ボックスを新たにコンコースに設置するため既存部分との兼ね合いがあり、また、改修工事のため図面と異なる場合もあることから意図伝達業務を実施することとした。

(5) その他

(質問) 令和 7 年 2 月に公共工事についての発注関係事務の運用指針が改正されているが、どのように把握し、その対応をしているのか。

(回答) 文部科学省を通じて情報は共有されており、必要な要請に対しては適宜対応しているところである。

(質問) 多様な入札契約方式の一つとして CM 方式が挙げられているが、本方式で対応できるような体制はあるか。

(回答) 現段階では難しいと考えている。

(質問) 担い手確保のための働き方改革等に関する事項もあるが、発注者側で対応していることはあるか。

(回答) 入札説明書の中に週休二日の確保や現場技術者の専任の合理化等社会情勢に応じた形で記載しているところである。

(意見) 担い手確保のための働き方改革等に関する事項は労働者の人権を守るという 2020 年に公表された「ビジネス人権に関する行動計画」が求めているビジネスにおける人権の擁護とも繋がるので、受注者側がしっかり取り組んでいることが確認できると良いと考える。

(回答) 国からの要請等を踏まえ、適切に対応していきたい。

7 委員会による意見の具申又は勧告

意見の具申又は勧告はなし